

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

カロリー（リスク）ゼロ理論（P2）

チーフカスタマーディーラー
井口慶一

今週のドル円予想レンジ **107.50 ~ 109.50**

りそなWEEKLY COLUMN

老後生活、必要な資金も人それぞれ（P3）

りそなホールディングス 市場企画部
石川啓太郎

- 祝！八村選手、NBAで初めて日本人がドラフト1巡目指名を受ける
- NBA選手の平均年棒は約7億円。でも引退後自己破産のケースも
- 老後生活2,000万円問題、計画的な資産形成についてじっくり考える機会としたい

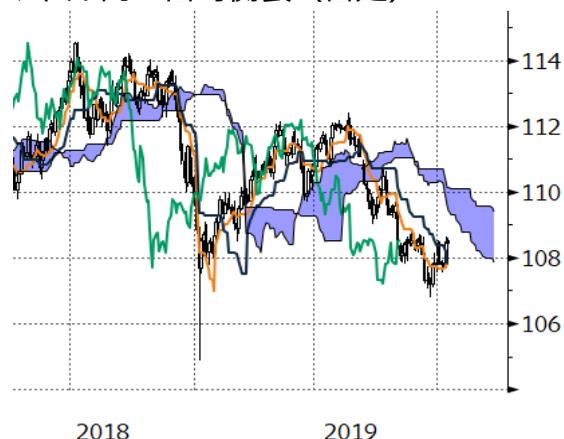
りそな外為レポート

カロリー（リスク）ゼロ理論

来週のドル円予想レンジ **107.50 ~ 109.50**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

カロリーは熱に弱い。ポテチはカロリーが死ぬ温度で揚げているからカロリーゼロ。アイスはカロリーごと凍らしてるからカロリーゼロ。甘い物を食べても、その後しょっぱい物を食べればカロリーゼロ。巷で人気のカロリーゼロ理論。米株市場でも似たような理論がまかり通っている。経済指標が強いと景気が拡大するからリスクゼロ。弱くてもFRBが利下げするからリスクゼロ。貿易戦争が緩和すると経済が活性化するからリスクゼロ。激化してもFRBが利下げするからやっぱりリスクゼロ。先週の米株は史上最高値を更新した。ナバロNTC委員長に至っては「トランプ大統領の成長計画を推進すればダウは3万ドル」と発言している。ちょっと何言ってるか分からない。いつかカロリー過多でしっぺ返しを食らうかもしれないが、現状は株式市場に買い安心感が醸成されつつある。月末に利下げが予想されるFOMCを控え、今週は10日のパウエルFRB議長議会証言が注目される。過度な利下げ織り込みが修正されれば、米金利上昇と株高でドル円の買いはリスクゼロ？ (チーフカスタマーディーラー 井口慶一)

◆今週の日程

8日(月) 日 5月機械受注	10日(水) 米 FOMC議事録 (6/18・19)
8日(月) 日 6月景気ウォッチャー調査	11日(木) 米 6月CPI
9日(火) 米 3年国債入札	11日(木) 米 30年国債入札
10日(水) 米 パウエルFRB議長議会証言 ~11日	15日(月) 中 6月生産・小売・投資
10日(水) 米 10年国債入札	15日(月) 中 19/2Q GDP

◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 5日(金) 108.47円 VS 12日(金)

東京							大阪				埼玉				
尾	中	湊	井	烏	田	関	藏	佐	鈴	武	野	小	津	石	伊
股	根		口	井	中	口	重	藤	木	富	瀬	林	田	井	藤
↑	↓	↑	↑	↑	↓	↑	↑	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↓

◆先週の動き



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

りそな WEEKLY COLUMN

老後生活、必要な資金も人それぞれ

- 祝！八村選手、NBAで初めて日本人がドラフト1巡目指名を受ける
- NBA選手の平均年棒は約7億円。でも引退後自己破産のケースも
- 老後生活2,000万円問題、計画的な資産形成についてじっくり考える機会としたい

りそなホールディングス 市場企画部
石川啓太郎

NBAで初めて日本人がドラフト1巡目を指名

NBAで初めて日本人がドラフト1巡目指名を受けました。指名を受けたのは富山県出身、21歳の八村塁選手。これはもう日本スポーツ史上に残る快挙といつてよいのではないでしょうか。数年前であれば日本人がドラフトで指名されるなど考えられなかったことです。筆者自身20年以上NBAを観戦していますが、こんな日が来るなど夢にも思いませんでした。八村選手の名前が呼ばれた瞬間は感動で鳥肌が立ち、何度もその動画を再生してしまいました。八村選手を指名したのはアメリカの首都ワシントンの本拠地とするワシントンウィザーズ。あの神様マイケル・ジョーダンもプレー（2001年～2003年）したチームです。ワシントンへの観戦ツアー、関連グッズの売上等、日本での経済効果も大いに期待できることでしょう。

NBA選手の年棒



さて、歴史的快挙が報じられる一方、今回大きく報道等で取り上げられているのが八村選手の年棒です。NBAではドラフト指名順位により年棒が決まっており、1巡目9位で指名された八村選手の年棒は約4.5億円になると言われています。先日、日本のBリーグでは、初めて1億円プレイヤーが誕生したとニュースになりました。八村選手はプロとして1度もプレーしてない状況で、その4倍もの報酬を獲得することになるのです。ルーキーでこの金額なら、アメリカ代表やオールスターに選ばれるような選手はどれ程の年棒なのか、気になった方も多いのではないのでしょうか？

そこで今回は多くの方にとってあまり馴染みのないであろうNBAにまつわるお金の話を紹介したいと思います。

NBAのトップクラスは桁違い

まず、先にあげた年棒について。NBAの平均年棒は日本円で約7億円。トップクラスの選手になると、なんと40億円を超える年棒を手に入れています。ここ5年間で3回優勝したゴールデンステイト・ウォリアーズのスーパーstar、史上最高のシューターとも呼ばれるステフィン・カリー選手の年棒は3,750万ドル、日本円にして41億円。NBAのレギュラーシーズンは82試合なので、試合あたりに換算すると1試合約5,000万円ということになります。さらに、試合時間は48分なので、1分で100万円稼いでいることになります。時給6,000万円です。桁違いの世界ですね。

りそな WEEKLY COLUMN

NBA選手の稼げる仕組み



なぜ、こんなに稼げるのでしょうか？理由は莫大な放映料と選手の少なさです。NBAは1チーム15人しか登録できません。チームは全部で30チームですので、NBA選手は世界でたった450人しかいないのです。それがNBA選手の年俸高騰につながっているのです。

アメリカの経済誌『Forbes』が発表したスポーツ選手長者番付2019のトップ100では、NBA選手が100人中35人と、19人のNFL（アメリカンフットボール）を大きく引き離して1位となっています。NBA選手のトップはロサンゼルス・レイカーズのレブロン・ジェームズ選手です。マイケル・ジョーダンを凌ぐとも言われる身体能力とオールラウンドなプレーで長年リーグを支配してきた選手です。その年収はなんと8,870万ドル、97億円にもなり、スポーツ選手全体でも8位にランクインしています。前出のカーリー選手は7,950万ドルで87億円、全体9位となっています。両選手とも年俸のほか、シューズメーカーとのスポンサー契約やCM等の広告料が大きなウエイトを占めています。ちなみに、全体1位はサッカーのメッシ選手で138億円、2位はロナウド選手（118億円）、3位はネイマール選手（114億円）とサッカー界のスーパースターが上位を占めています。

NBA選手の引退後

続いて引退後の話。日本では先日、老後生活において年金とは別に2,000万円が必要との報道が、世間を揺るがしました。大金を稼ぐNBA選手であれば引退後・老後も、何の心配もなく悠々自適な生活を送れると思われるかもしれませんが（何しろカーリー選手にしてみれば2,000万円は20分で稼げる金額）。しかし、現実はそのようではないようです。NBA選手の60%が引退から5年以内に自己破産するという驚きの報告があります。現役時代に大金を稼いだことで、金銭感覚が狂い、引退後も浪費を繰り返してしまうことが多いようです。

一方で、引退後もそんな生活とは無関係な人物がいます。神様マイケル・ジョーダンです。ジョーダンは、2003年に現役を引退しましたが、自身のロイヤリティ契約だけで年間100億円以上の収入があり、現役選手よりも大金を手に入れているのです。総資産は1,800億円超とも言われており、プレーもお金もまさに神様レベル！

ちなみに、MLB（メジャーリーグ）には終身年金制度があり、10年間所属すれば60歳以降、年間21万ドル（約2,300万円）が支給されます。選手たちは将来を心配せず、安心してプレーに打ち込むことが出来ますね。

老後の生活や必要な資金は人それぞれ

老後の生活スタイルや必要となる資金は人それぞれです。結局のところ、収入に見合った支出、将来を見据えた貯蓄・運用、それらのバランスが崩れてしまっただけでは元も子もありません。今回の報道も、計画的な資産形成についてじっくりと考える機会としたいですね。